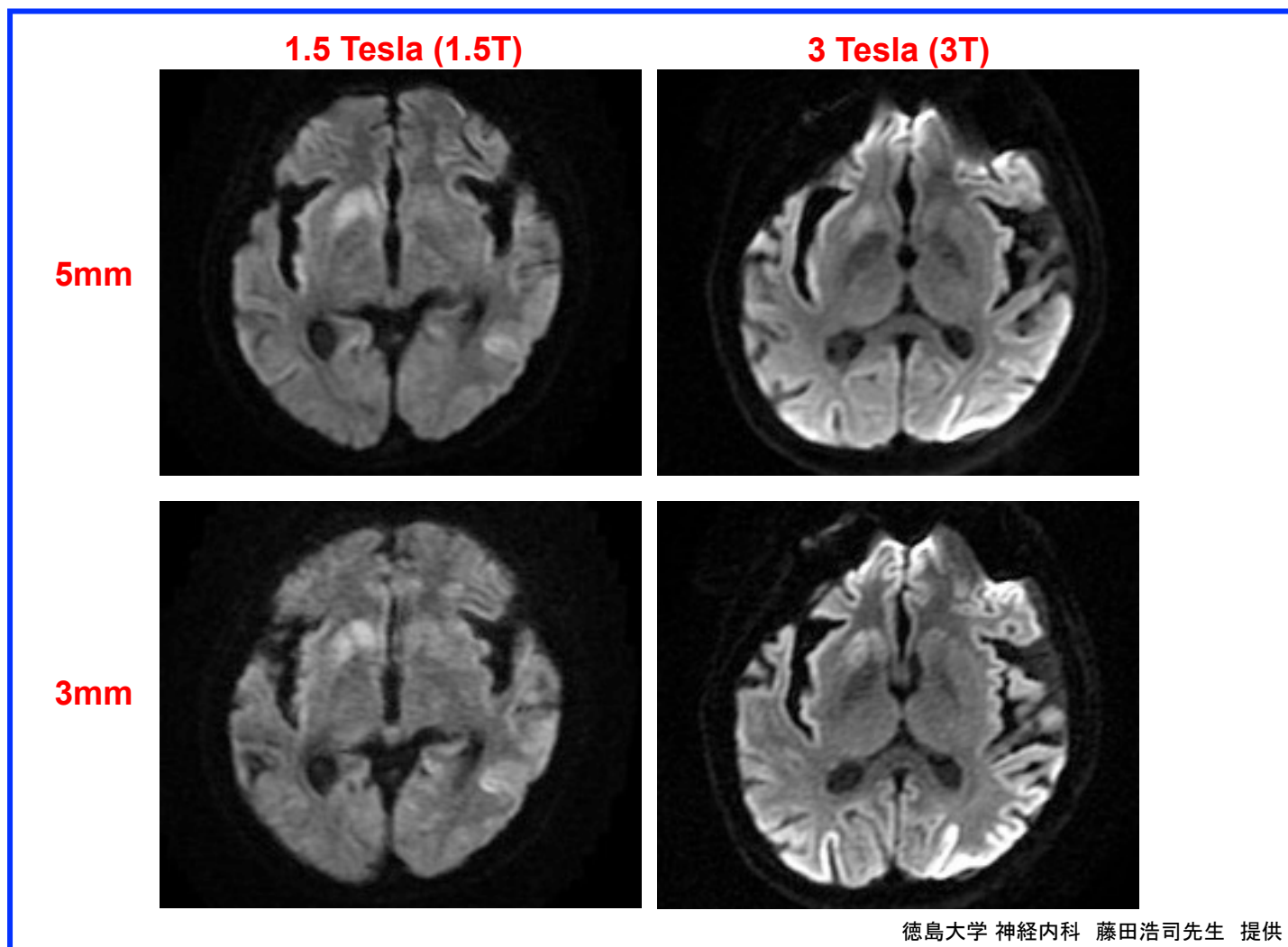


拡散強調画像のプリオン病診断能(磁場強度・スライス厚による差異)

研究分担者: 岩手医科大学医歯薬総合研究所超高磁場MRI診断・病態研究部門 佐々木真理



解説

1. 同一CJD患者を1.5T, 3T MRIを用いて、通常の5mm厚と薄切3mm厚で撮像した。
2. 3Tでは1.5Tに比しアーティファクトや歪みが強く、皮髄境界が明瞭なため、病変か否かの判定が難しい。また、線条体の病変が磁化率効果のため不明瞭化している。
3. 薄切3mm厚で撮像することで、1.5T, 3Tとも病変の描出能が向上する傾向にある。
4. 今後、同一患者を1.5T・3T装置を用いて通常・薄切スライスで撮像したデータを用いた多施設読影実験を実施する予定である。